

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1971600240
法人名	社会福祉法人 八十八会
事業所名	グループホーム南岳荘
所在地	山梨県南アルプス市徳永436-1
自己評価作成日	令和 年 月 日
評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/19/index.php">http://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	令和 6 年 1 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナが5類にはなりましたが、制約の多い日々をご利用者様にも、ご家族様にも、職員にも強い状態がまだまだ続いています。コロナウイルス感染症の発生以後、荘内で行えるイベントの充実を力を入れています。従来からの通信カラオケに加え、タブレット端末を導入し、動画配信サービスを活用し、楽しんでいただく機会を増やしています。またなかなか外出出来ないご利用者様に、今年打ち上げ花火をご覧いただきました。実生活面では感染症対策の一環として、オゾン発生器を導入しコロナ対策を継続し行っています。また原則 ご家族対応でお願いしている病院受診は、5類以降に降され荘内で感染症が発生していない時は、ご家族様対応にて受診して頂いております。面会については、ホーム内にアクリル板で囲った空間を作り、直接触れ合っていたくことは出来ないのですが、直接面会が出来るような面会を継続しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は法人の特別養護老人ホーム、短期入所施設と併設され、3階の1階部分がグループホームです。法人の理念は「縁ある人々と共に差別なく、人間の生きる尊さを大切に摂理にかなった生き方を、日々怠りなく追及する」と掲示しており、管理者や職員も理解し共有しています。コロナ禍で外出が制限された分、特養と一緒に花火大会や秋祭りなどを楽しんでいます。感染対策の一環としてオゾン発生器を導入し、利用者様の安全管理に細心の注意を払っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) <b>(※窓越しの面会など距離をとった交流)</b> ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49) <b>(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)</b> ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム南岳荘

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(コスモス)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームとしての理念を掲げ、管理者は事業所内の会議の席や日常的な会話の中で、理念を含んだ話しをするようにしている。	法人の理念に沿ったグループホームの理念は、事業所の入り口に三つ書かれています。出会いに感謝、相手の思いを汲む、そして自らの五感を働かせ、その人を見るという理念です。職員に共有されています。	日々、理念に沿った仕事をしていますが、会議などで全員で再確認することを期待します。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	今現在、コロナが5類に移行になりましたが、ご利用様が日常的に地域と交流する機会を持つ事は出来ていません。	以前から地域との交流は、ボランティア団体の受け入れや各サークルなどの交流はありましたが、コロナ禍の影響で休止しています。今後関係者と話し合い、交流の方向でいます。利用者様は安全に配慮しながら周辺の散歩などを行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍ではあるが、実習依頼先と話し合いながら、感染症対策の上、実習生の受け入れを行っている。地域に向けては活動に制限がある中なので、今期に入り再開した対面式での運営推進会議をの場を使い、情報の提供をさせてもらっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の席で事業所からの報告等に対して委員の皆さんから質問・意見・要望等を伺いサービス向上につなげるようにしている。	運営推進会議は2か月に1回開催しています。メンバー構成はご家族代表、地域の代表3名、市の担当者、職員です。会議では事業所の現状を報告し、ご意見や質問などを頂き、説明をしてご理解を得ています。会議の内容は職員間でも共有し、運営に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスについての疑問や判断に困ってしまう事柄が発生した際には、市の担当者に相談しアドバイスをいただくようにしている。	困難事例や運営に関して相談しています。また運営推進会議に見えられた市の担当者や、事業所の運営や空き情報の話し合いをしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は利用者様が、さまざまな拘束により不快な思いをすることがないようにケアに取り組んでいる。ご家族には、契約時に身体拘束を行わないことを伝え、それに伴うリスクの説明をしている。現在、利用者様の安全確保の為、玄関の施錠をさせていただいている。利用者様の要望や希望時には、いつでも柔軟に対応できるようにしている。	契約時に、身体拘束をしない取り組みをご家族に説明しています。身体拘束に関わる研修も行われ、管理者や職員で共有しています。基本的に、自分にとって嫌なことは利用者様も同じという考え方で取り組んでいます。不適切な言葉かけもお互い注意できる環境です。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で勉強する機会を持っている。管理者は職員の心身の様子に注意を払い、疲労やストレスによる虐待につながるような気をつけている。また、衣服の着脱時や入浴時等に、利用者様の身体の状態を拝見し、異常等がないか確認している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修の開催がある際には、未受講の職員が参加出来るように努めている。研修参加後は、受講者より他の職員達へ伝達研修を行い、制度の理解を深めるよう努めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結・解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に、ご本人・ご家族と話し合いの時間をもち説明をさせてもらっている。書類等にも十分目を通していただく時間的余裕を持ち、不安や疑問点にお答えしたうえで契約していただいている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム南岳荘

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(コスモス)	実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様に対しては、日頃の生活の様子の変化等に出るだけ早く気づくよう心がけ、声かけし意見や要望等話していただけるよう努めている。ご家族に対しては、来荘時や電話で話をする際に、気軽に話していただけるような雰囲気作りを心がけている。	ご家族アンケートから「家族が気軽に訪ねていきやすい雰囲気か」という項目で100%近くが大変行きやすいと回答をしています。ご家族の困っていること、求めていること等よく聞いています。利用者様や運営に関することは会議に取り上げて進めています。毎月発行の南岳荘だよりは大変好評です。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度スタッフ会議を行っており、その席上で各職員から意見等を聞くようにしています。提案や要望に対し、速やかに対処出来る事柄から実現するように努めている。	現場を長く経験した管理者は、現場のノウハウをよく理解をしています。職員同士で話し合ってきたこと、課題等いろいろ背負ってきていますので、職員と話し合いながら優先順位を決めて運営に反映しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、出来るだけ職員の仕事ぶりを把握する努力をしている。職員には長く勤めてもらいたい、利用者さまと馴染みの関係を築いてもらいたいと願っています。少しでも働きやすい職場になるよう環境作りに努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を現地にて参加したり、オンラインを使った研修にて学びの場を増やしている。資格取得を職員が目指せるよう取得を勧めたり、情報等の発信を行なっている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため、同業者との交流の機会が持てていない。山梨県グループホーム協会のZoomを使った交流への試みに参加出来るよう環境を整え機会を増やしている。			
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望があった際は、事前にケアマネジャーとご自宅や生活されている場所等へ訪問し、可能な限りご本人と面談をさせていただいている。現在の生活の様子や今までの生活歴等を伺い、スムーズに入居につながるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がどのような経緯でサービスを利用されようと思われたのか、またどのようなサービスを望まれているのかをお伺いします。ホーム側からは、どのようなサービスを提供できるのかを説明し安心してサービスを受けていただけるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にいただいた情報から、必要なサービスの導入を試みます。状況等をご本人・ご家族に相談・確認しながら、ご希望に添える支援をできるだけ柔軟に行えるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の意思及び人格を尊重し、常に利用者様と対等の立場に立ってサービスを行うとの運営方針の下、ご本人の思いや、喜び、苦しみ、不安等を分かち合い、日々の暮らしの中で支え合信頼関係を築ける様に努めている。			



自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム南岳荘

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(コスモス)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と直接触れ合う面会は制限させていただいている状態を継続していますが、荘内にアクリル板で囲われた空間を作り面会を出来るようにしている。そういう機会に利用者様の日ごろの生活の様子等をお伝えし、ご家族の思いと、職員の思いが共有できるよう努めている。また、ご利用者様にとってご家族の存在は何者にも変えることができない大切なものであることを折にふれお話ししている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で自由に行き来をしていただくことは出来ていない。ご家族の様子ができる写真を届けて下さるご家族もいらしゃり、会話の話題にさせてもらうことができ難く思っています。	コロナ禍で難しい環境ですが、南岳荘グループホームだよりを月1回発行しています。今月の行事予定、お知らせ、写真の添付、担当者の一筆啓上などご家族に伝えています。お便りをご家族から見せられた関係者も喜んでます。事業所の思いが伝わっています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士が楽しく会話や活動ができるような働きかけとして、食席の工夫や場のセッティングをしています。また、個別にお話や相談ごとをお聞きする時間を取ることを心掛け、トラブルが生じないように関わっている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族には契約が終了した後でも、何か力になれることがあれば相談していただけることをお伝えしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中でご利用者様の思いや意向を把握しながら支援している。意思疎通が困難な方には、日々の情報やご本人の言葉や表情から推察したり、ご家族に相談したりと、可能な限り本人本意に近づけるよう努力している。	入居時、利用者様の生活歴や趣味などを聞いています。職員は、日々の生活の中で利用者様の思いや意向を聞く際の補助にしています。利用者様の表情など変化を見逃さないように、少しでも気持ちに沿う努力をしています。思いや意向は記録をし、職員は共有しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のライフスタイル・個性や価値観等を尊重し、穏やかで居心地の良い暮らしが出来るよう、入居する前の暮らし等を面談時のアセスメント等で確認し、職員が情報の共有をしています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況を個々のケア記録に残し、職員全員が把握、確認ができる様にしている。特に体調の変化・心理面・精神面の変化に注意し、現状の共有を図っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には、日頃の関わりの中で思いや意志を聞き、介護計画の中に反映するようにしている。ご利用者様の担当職員を中心に職員と定期的にカンファレンスの時間を設けてアセスメントを行い、現状に近い介護計画を作成している。	入居時に、利用者様の生活歴や現在の様子などを、ご本人や家族様にお聞きし、関係者を含め利用者様がよりよく過ごしていただける計画が作成されています。介護計画の見直しも適切に行われ、計画担当者や担当職員で、意見交換やカンファレンス等を行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・排せつ等、また個別に必要な場合は合わせて、水分量・睡眠量・血圧等のチェックシートを使用し、日々の健康状態の把握をしている。ご利用者様の変化や職員の気付いたことは個々の記録と回覧用ノートに残し情報の共有している。またスタッフ会議等の場でケアの見直し等々を検討している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	普段から気丈夫で、気づかいをされ、余り多くの訴えをされないご利用者様の元気がない様子が感じられた際、職員の関わりを増やしたのに加え、お忙しくて頻りに面会に来られないご家族様に対し、ご利用者様思いを代弁する気持ちでご面会のお願いをさせていただいたりしている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム南岳荘

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価		
			ユニット名(コスモス)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の図書館より図書の貸し出しをしてもらっており、常時いろいろなジャンルの50冊位の本とビデオ3本、紙芝居3つを自由に借りていただくことができる。定期的に図書館の方が本等の入れ替えにも来て下さり、飽きることなく利用してもらうことができる。依頼すること、ご利用者の要望に応じたジャンルの本等を選んでくれる協力もしてくれている。				
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が信頼している医師に主治医をお願いしている。受診の際、医師に伝えたい情報をしっかり伝える為に、口頭に加え書面を使って伝えている。現在定期受診はご家族様対応をお願いしているが、職員が送迎や同行する協力体制もとっている。歯科については、希望により訪問診療を受けることも出来るようにしている。	入居時、ご家族には事業所の協力病院の説明をしますが、利用者様の馴染みの医師による継続的な医療を受けられるようお願いをしています。通院介助は職員が送迎や同行をする協力体制をしています。利用者様の状態をしっかりと伝え、間違いのないようにしています。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員・介護職員は、ご利用者の観察・健康チェック表・排泄チェック表等により、ご利用者の日々の体調変化などを見逃さないよう早期発見に努めています。現在看護職員を配置していないが、併設のデイサービス、特養の看護師からの協力を受けられる体制になっている。				
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はご利用者の看護サマリーを病院に提出し、情報を伝達している。また入院後は折に触れ病院と連絡を取り、入院後の経過を確認するようにしている。退院時は医療機関とカンファレンスを行い情報を職員で共有している。				
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族からの相談も聞かれるようになってきています。まだ看取りへの取り組みは不十分な状態ですが、ホーム内で現状できることを、ご家族と主治医と話し合いを持ちながら対応させてもらっている。ケアプランの説明の際には、重度化した際や終末期に対するご家族のお考えを確認するように努めている。	入居時、重度化に向けた方針についてご家族と話し合いをしています。看取りまでの支援はしていません。重度化になった場合、事業所がどこまで支援できるか職員間で話し合っています。刻々とせまる利用者様の状態変化には、主治医やご家族と連絡をとり、事業所ができる最大限のケアに努めています。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、落ち着いて行動ができるようマニュアルを準備してある。原則マニュアルに沿って対応することになっている。年に一度、普通救急救命講習を実施しているが、定期的な訓練の実施という点では不十分な状況です。				
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成、日中、夜間を想定した火災に対する避難訓練、地震想定・水害想定での避難訓練を年に数回行っている。また職員への緊急連絡等はLINEやメールのツールを活用し統一した情報の共有が出来るようにしている。	年2回夜間及び昼間を想定した避難訓練が、利用者様も含めて行われています。自動火災報知機、非常放送設備も整備され、カーテンや布団は防炎性のあるものを使用しています。災害時には地域住民の一時的な受け入れ体制があり、協力関係ができています。			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>							
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の生活層等を把握しうえでの話題や言葉掛けを心掛け、親しい関係が慣れにならないよう注意を図っている。また、職員の言葉掛けにより、利用者様が不快な気持ちになることのないよう気をつけている。	利用者様への声掛けは、年長者として敬意をもってゆっくり話されています。あからさまなトイレ誘導ではなく、利用者様の様子を見ながら自己決定しやすい様な声掛けを心掛けています。			

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム南岳荘

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(コスモス)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	週一度、昼食を2つのメニューから選んでもらう選択食を決めてもらっている。また選挙が行われる際、希望されるご利用者様には職員付き添いにて投票に行ってもらっている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはありますが、個室ならではのライフスタイルを尊重しています。居室や居間でテレビを見られたり本読まれたり、食事の準備をされたり、日中お気に入りの場所でくつろがれたりしている方もいます。体操も取り入れ体を動かして頂いたりしています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身支度は、意思表示をして下さる方が少なく職員がかかわりながら選んでいる方が多いです。各種イベントの日には、その場に合った装いで参加していただけるよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	原則、食事は事業所内の厨房で準備している。ご飯と味噌汁はホームで準備し、盛り付け、配膳、下膳等を複数の利用者様が職員と一緒にやっている。メニューに苦手な物がある場合は、違う物に代替えている。週に一度の選択食では好みの食事を選んでもらっている。月に一度の誕生日メニューは、普段より豪華なメニューが並ぶので皆様楽しみにされている。たまにはあるが、大好評していただける宅配寿司を頼んだりしている。体調に合わせて、食事の形態や療養食等、柔軟に対応できるようにもしている。	利用者様個々の力が発揮できるように、職員と一緒にを行っています。個々の役割があることで自信にもつながっています。週に1度の選択食や月に1度の誕生日メニューは、利用者様にとって喜びや楽しみの一つです。メニューに変化をつけることで、食欲や食事への関心を高める工夫をしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事・水分の摂取量や残量を記録に残し、職員間で情報を共有している。食事量の少ない方には補食を、水分が摂れていない方にはご家族の了承を得て、ジュース類や水分ゼリー等で補うようにしている。必要な方には、療養食も提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方には声掛け、見守りで最後に職員が一部介助で仕上げを行わせていただいている。義歯の方には就寝前に洗浄剤を使用させていただいている。また訪問歯科との契約をされているご利用者様は、定期的に口腔内のケアと必要時に治療をされている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々のトイレ時のサインに注意しながら気持ちよく排泄していただけるように支援している。また、身体機能に応じての介助、排泄用具(パッド他)等も適時適切な方法で検討している。座位が保てる利用者様には、トイレやポータブルトイレを使用していただき、出来るだけ自然な形で排泄いただけるよう支援している。	利用者様の尊厳を大切に排泄チェック表を利用し、さりげない言葉かけでお誘いをしています。利用者様個々の様子・その時々状態を把握し、負担がかからないように配慮しています。排泄のチェックは全職員が把握し介助しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便がなかなか無く数日排便がない方には下剤を服用して頂いています。腸の働きを良くするために体操や散歩等で体を動かしていただくことも試みている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なかなか自由に入浴をしていただくことは難しい状況ですが、事前に入浴のあることをお伝えし承じていただいている。職員とマンツーマンの時間が持てる場なので、会話をしながら、楽しく湯浴できるよう支援している。	利用者様の希望にできる限り合わせて、週2回の入浴に取り組んでいます。気分がすぐれない時は無理強いをしないので別の日の対応をしています。羞恥心や恐怖心などを考慮した介助をしています。利用者様の趣味や生活歴などから話題を探し、会話しながら楽しみながらの入浴時間です。		



自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム南岳荘

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(コスモス)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を多くし、安眠につながる支援を行っている。個々の睡眠パターンを把握しながら排泄介助のタイミングを決めている。また、物音、照明等にも注意を払っている。なかなか寝付けないご利用者様には、無理強いせず、お一人または職員と過ごしていただいたり、温かい飲み物を提供したり、自然に眠気が来るまで待つようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋の内容を職員が十分に理解し把握できる様、表を作り綴りにしていつでも確認できるようにしている。服薬はマニュアルに沿って職員がご利用者様の名前、薬の確認、服用終了までを確認し、服薬してもらっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割分担によって、本人の得意とする分野で力を発揮していただき、生きがいや張りのある生活を送ってもらえるよう職員が働きかけをしている。(洗濯物干し、食事の準備、食後の片付け、花壇・畑の水やり等)			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は出来ていない。戸外へは、ホームの敷地内や隣接する公園へ散歩に出かけるに動いている。	コロナ禍の影響で日常的な外出支援はできていませんが、敷地内の散歩や隣接する総合交流施設に出かけています。多くの人出があり利用者様もその光景を楽しんでいます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自己管理を希望されているご利用者様はおらず、ホームのお預かり金制度を利用いただいている。希望に応じ必要時にはいつでもお渡し出来るようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により部屋に電話を設置することができ、自由に使用いただくことができる。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やフロアは季節を感じられるよう、皆さんで作ったカレンダーや飾りで装飾している。また、書道の作品や行事等で撮った写真も飾り、話題づくりのきっかけになっている。	共用スペースは広く、居心地よく過ごすことができます。壁には利用者様が作ったカレンダーや書道の作品が展示されており、ぬくもりがあります。行事の写真や個々の写真も掲示して話題作りの一つになっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間での席は一応決めているが、生活の継続の中で快適に過ごしていただけるようご利用者様間の様子を見ながら都度変更したりしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への愛用品の持ち込みは、危険な物でない限り自由にお持ちいただいている。ご本人が安心した生活が送れるよう、その方らしいお部屋になるように支援している。ご家族、お孫さん、曾孫さんの写真が多く飾られている部屋もある。	居室はフローリングです。今までの生活の延長線上で生活ができるように、馴染みの物があり安心し落ち着ける環境です。にこやかに笑いかけるご家族の写真や、着飾ったお孫さんの写真に利用者の人柄を感じ取ることができます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	壁や廊下、また、トイレ・浴室にも手すりが設置しており、歩行に少し不安のある方でも安心して歩いていただけるような対策をしている。ホーム内には、平行棒が設置しており、日常のリハビリとして歩行訓練に使用している。			